

# 平成30年度 研修の歩み

今年度、本校では主題研究の実践に併せ、以下の研修会を開催し、指導力・専門性の向上に努めました。

4月23日（月）主題研究全体説明会

5月 7日（月）主題研究全体研修会（講師：日本体育大学 長沼俊夫 教授）

8月 21日（火）特別支援教育セミナー（講師：日本福祉大学 金森克浩 教授）

11月 2日（金）主題研究授業実践協議会（講師：福岡大学 徳永豊 教授）

12月 17日（月）特別支援学級担当教員研修（肢体不自由）（講師：筑波大学 川間健之介 教授）

## I. 平成30年度 主題研究

【主題研究テーマ】

### 「3つの資質・能力の育成を目指す各教科の授業づくり」

～自立活動の視点を踏まえた指導目標、単元構成、評価の在り方を考える（1年次）～

重点事項：障がいの状態や特性及び、心身の発達の段階を踏まえた各教科の実態把握に基づく  
指導目標・内容の設定

今年度は3ヵ年計画の1年次研究として、重点事項を「障がいの状態や特性及び、心身の発達の段階を踏まえた各教科の実態把握に基づく指導目標・内容の設定」とし、各教科の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にした上で、各教科における児童生徒の実態を丁寧に把握し、実態に応じた適切な指導目標・内容を設定した授業づくりについて研究を行いました。研究の流れとしては以下の通りです。

#### ①「実態表」の作成

【実態表】		グループ名 (例題)
( 科 ) における心身の発達の段階		難関の把握
教科での発達段階		心的的な変容
		自立活動での整理
		人間関係の形成
		精神的の把握
		身体的の動き
		コミュニケーション

#### ②「Lシート」の作成

【実現の構成を実現するLシート】		単元名 (例題:Lシート)
1. 指導場面 (教科名及び单元名は題材名)		手立て・工夫
2. 学習指導要領		自立活動
3. 単元の指導目標・内容		

#### ③研究授業

(例：小2年 算数[小学部1段階])

##### 1 単元名

「3までの数～すごろくをしよう～」

##### 2 単元の個別目標

(1)サイコロの1～3の数字を読んだり、ドットを数えたりして、指数字や数詞で表すことができる。【知識・技能】

(2)すごろく盤の上で、出た目の数だけこまを動かすことができる。【思考・判断・表現】



#### ④追跡授業



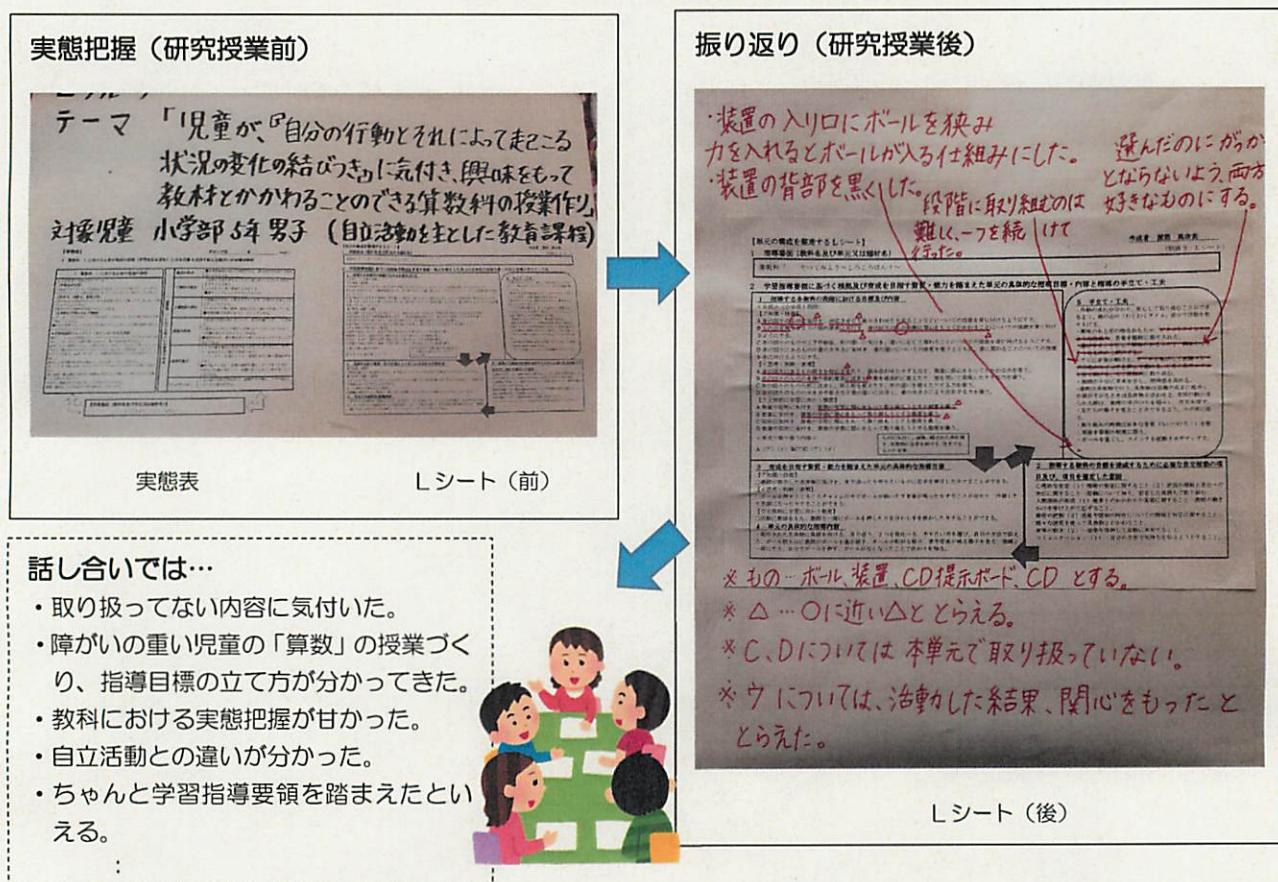
#### ⑤仮説検証 ☆現時点

#### ⑥主題研究実践報告会（ポスター発表）

「Lシート」は、本校のこれまでの主題研究において、授業づくりにおける各教科と自立活動の捉え方を踏まえ、検討を重ね、書式等を整理しました。今年度はそれを活用して研究を進めています。

小学部5グループ、中学部3グループ、高等部4グループの計12の小グループを編成し、教育課程で新たに起こした各教科の授業を研究対象としました。自立活動を主とした教育課程のグループでは「国語」「算数・数学」を、また知的代替の教育課程のグループでは「国語」「算数・数学」の他に「職業・家庭」を研究対象の教科として取り上げています。学習指導要領を基に、それぞれの単元や題材の中で育成を目指す3つの資質・能力を踏まえた指導目標と指導内容を設定し、追跡型研究授業を実施し、「Lシート」や「実態表」で指導目標や指導内容の妥当性を検討し、振り返る手続きを踏むことで授業の充実を目指しています。

[例：小学部Eグループ「算数」　自立活動を主とした教育課程]　～途中経過～



なお、今年度の主題研究のまとめについては、平成31年1月28日(月)に「平成30年度主題研究実践報告会」にて、全グループのポスター発表を行う予定です。

## II. 平成30年度 主題研究全体研修会

演題 「児童生徒一人一人の実態に応じた各教科の授業づくり」

長沼 俊夫 氏(日本体育大学 体育学部特別支援教育 教授)を講師としてお招きし、特別支援学校学習指導要領の改訂のポイントを踏まえ、「授業づくりの基本的な考え方」についてのご講演をいただきました。今年度の主題研究を実施するにあたり、全職員で「教科」と「自立活動」の在り方や学習指導要領に示されている育成すべき資質・能力について共通理解を図るとともに、児童生徒を指導する際の大変なポイントについてお話をいただくことができました。

### III. 平成30年度郡山支援学校特別支援教育セミナー

演題 「子どもの『したい』を実現する支援機器の活用」

今年度の新しい試みとして、本校の研修部、地域支援センター、自立活動部、A T活用委員会が連携し、特別支援教育セミナーを開催しました。講演会では、金森 克浩 氏(日本福祉大学 教授)を講師としてお招きし、肢体不自由者が、アシスティブ・テクノロジー (Assistive Technology) を活用している動画を基に、子どもたちの「したい」をどう実現していくかについてご講演いただきました。



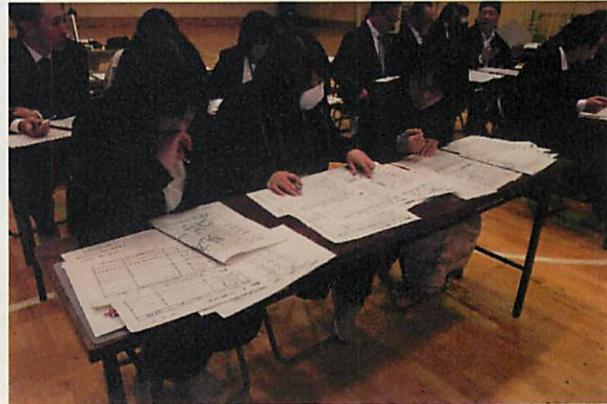
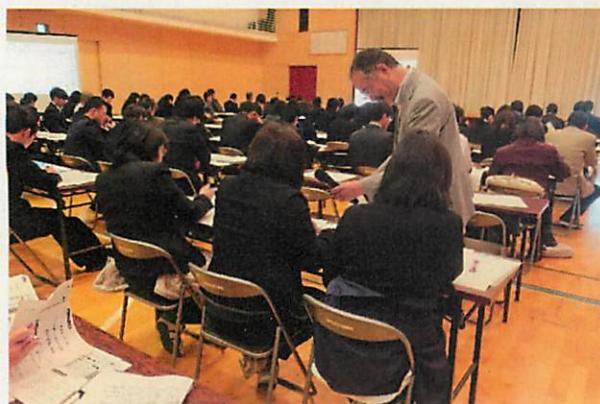
また、タブレット端末のアクセシビリティ機能やコミュニケーション支援アプリケーションの活用について、演習を行いました。

外部からの参加者に対して個別相談会を設け、A Tに関することや自立活動についての具体的な相談支援を行いました。

### IV. 平成30年度主題研究授業実践協議会

演題 「障がいの重い子どもの目標設定と教科指導について」

徳永 豊 氏 (福岡大学 教授)を講師としてお招きして、授業実践協議会を行いました。本校教諭による4つの授業を参観していただき、各授業者に実態把握や指導目標の設定について指導助言をいただきました。また、全職員を対象に、本校で以前から取り入れていた「Sスケール」についてご講話をいただき、実際に事例を検討しながら、指導目標を設定する演習が行われました。



#### <講演受講者の感想>

- ・徳永先生の助言を受けながら、Sスケールを実際にやってみることができたことがよかった。
- ・障がいの重い児童生徒の教科(国語、算数・数学)はどのようなことなのか、また学習の積み上げをしていくための指標となるようなものを提示いただき、参考になった。発達の段階・意義の大切さを知ることができた。
- ・2~3人で事例検討することで「複数の目で見る」ことの大切さが分かった。同じ実態を見ていても捉え方は人それぞれであった。やはり複数の目で確認して共通理解を図ることが大切だと感じた。

## V. 平成30年度特別支援学級担当教員研修会（肢体不自由）

演題 「肢体不自由のある児童生徒の教科指導～自立活動との関連を保ちながら～」

県内の特別支援学級（肢体不自由）を担当している先生方を対象に研修会が行われました。 川間 健之介 氏（筑波大学 教授）の講演会には本校全職員が参加し、肢体不自由教育に関する今後の方向性を確認できる貴重なお話を伺うことができました。知的障がいの教科に関する変遷について触れながら、新学習指導要領に示された「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」について、また観点別評価を含めた今後の動向などについてご講演をいただきました。

